吉田南中だより

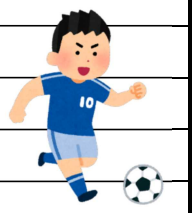
令和５年６月２８日
鹿児島市立吉田南中学校

７月の主な行事

サッカー部が市総体で３位入賞，県総体にコマを進めています！

７月

日	曜	行　事　内　容	日	曜	行　事　内　容
4	火	全校朝会　１年・３年健康教室	14	金	3年生クラスマッチ
5	水	生徒会役員立候補者決定	17	月	海の日（祝日）
6	木	体育大会オリエンテーション⑤⑥	19	水	生徒朝会　体育大会練習⑥
7	金	全学年進路学習　漢字検定	20	木	終業式　大掃除　地域生徒会
8	土	土曜授業 ＰＴＡミニバレー（午後）	21	金	３年三者面談（～29日）　夏季休業日（～8/31）
			23	日	県吹奏楽コンクール
10	月	かごしまジュニア検定（1年）	24	月	県中体連（水泳）
11	火	学級専門部会　　１年生集金日	25	火	県中体連（サッカー）
12	水	２年生集金日　1年生クラスマッチ	26	水	吹奏楽夏の祭典（本校出場日） 市中学生弁論大会　県中体連（サッカー）
13	木	生徒会専門委員会　3年集金日 2年生クラスマッチ	27	木	県中体連（サッカー）



心の豊かさを育みたい　＜様々な体験活動と生徒の活動報告＞

学校では，生徒の視野を広げ，自他を尊重する心を育むために様々な体験活動を企画し，実施しています。６月は，三年生向けの英語俳句を体験する活動，スクールドリームプランや生徒朝会での学級目標発表会がありました。学校では様々な体験を通して豊かな心を育もうと考えています。

英語俳句教室の様子

生徒朝会の様子

ｽｸｰﾙﾄﾞﾘｰﾑﾌﾟﾗﾝではｉＢＳ外語学院の南学院長をお招きして，「生き方」について学びました。

小中連携授業参観・PTA授業参観　＜地域で一丸となって＞

鹿児島市では小学校と中学校が連携して，地域の子を育てるという視点から「小中連携研修」を毎年実施しています。今年も生徒たちは久しぶりに小学校の恩師に会えてうれしそうでした。

また，保護者の授業参観・ＰＴＡもありました。コロナ禍でまだまだ油断はなりませんが，人で賑わう学校の様子に，うれしく思うことでした。保護者の皆さん，御参加ありがとうございました。来月のミニバレー大会もよろしくお願いします。

夏の心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育てる運動

７月１日から８月31日まで「明るく たくましく すこやかに」をテーマに，下記のような運動を展開しています。「起床時間，登校時間，下校時間，学習開始時間，就寝時間」の５つの時刻をなるべく一定に固定する，『五点固定』の取組が大切です。子供たちの健全育成のために，ともに取り組みましょう！

- ○　地域ぐるみで，青少年へのあいさつ，声かけを実施し，非行等の未然防止に努める。
- ○　環境点検等（危険箇所等の点検）を実施し，交通事故・水難事故等の防止に努める。
- ○　「早寝　早起き　朝ごはん」の習慣化やラジオ体操への参加などを通して基本的な生活習慣の育成に努める。
- ○　スマートフォンやゲーム機器等の正しい使い道やネットトラブルについて家庭や地域で話し合う。

『真剣に叱られる』～松下幸之助さんの本から

おたがい人間，叱られるということは，あまり気持ちの良いものではない。
自分に非があったと認めていても，叱られるということはやはりいやである。
だから，叱られるよりも叱られないほうを好みがちで，これは１つの人情である。
また叱るほうにしても，あまり気持ちの良いものではない。嬉しい思いはしない。
だからできれば叱らないように越したことはないわけで，これもまた１つの人情といえよう。

しかし人情と人情とがからみ合って，まあまあのウヤムヤにすぎ，叱りもしなければ叱られもしないということになったらどうなるか。神様ならいざ知らず，お互いに人間である。
知らず知らずに，ものの見方考え方が甘くなり，そこに弱さと，もろさが生まれてくることになる。

もちろん，私情にかられてのそれはいけないけれども，ものの道理について真剣に叱る，
また叱られるということは，人情を越えた人間としての１つの大事なつとめではあるまいか。
叱られてこそ人間の真の値打ちが出てくるのである。叱り，叱られることにお互いに真剣でありたい。

・・・　「真剣に叱るつとめ」を，自分も大人の一人として果たそうと思ったお話でした。

教頭　河野　和一

「勝ち（かち）」よりも「価値（かち）」

生徒の頑張る姿や集中する姿は，まわりに元気や勇気を与えてくれます。
先日，中体連鹿児島市地区大会が終了しました。送迎をしてくださる保護者の方々や，勤務時間外にも関わらず熱心に生徒にかかわる教職員に感謝の気持ちでいっぱいになります。ありがとうございます。

勝負やコンクール等の目標は，そこをめざすことで，個人やチームの技量，気持ちのコントロールの仕方，チームワークなどが向上していくのはいうまでもありません。と言うものの，私自身は部活動の顧問をしているときに，勝ちにこだわりすぎていたり，試合に勝てないことでやるせない気持ちになったりすることもありました。

そんな気持ちでいたある日，ミュンヘンオリンピック平泳ぎ百メートルで金メダルを取られた鹿屋体育大学の田口信教（のぶたか）教授のお話を，直接，聞いたことがありました。

「スポーツなどで他者と争う経験は，人生で大切な経験です。勝ち負けを通して，うまくいかないこともあるし，負けてもあきらめずに繰り返して立ち上がろうという『価値』を得ていることになるのです」と話されたのを聞いて，唖然となりました。勝ち負けにこだわりすぎていた自分の気持ちが吹っ切れたような気持ちになりました。

勝ち負けを通して，また，それに至る努力や工夫，過程，周りの方々との関わりの経験を通して，子供たちはいろんな「価値」を得ているのだと思うことでした。

（参考：「諦める力」　為末　大著，小学館文庫プレジデントセレクト／「タオ」　加島祥造著，筑摩書房）

校長　塚元　宏雄